



あおき ひろあき
青木 浩明 議員

町政運営

子育て支援と教育の充実は 個別の計画策定はこれから

問 教育は人づくりであり、少子化の今だからこそ種を蒔かなければいけない時になっている。
町長は、10月の臨時議会の所信表明で次代を担う子どもたちの将来に

しっかりと投資をしていくとし、家計支出の多い子育て世帯への支援策と教育の充実を図ると述べている。

この所信表明や選挙戦で訴えた子育て支援と教育の充実を具体化するため、本任期中にどのような事業展開と施策を考えているかを問う。

答 大西町長

現在、子育て支援として50のメニューがあり、そのうち約20が経済支援となっており、事業費で約2億円、一般財源を1億円投じて実施している。子育て支援施策全体の実効性を高めるため、個別の政策をはじめ、政策体系全体の見直しを図る。

教育については、本町で育つ子どもが社会を生き抜くために、自ら考え、設問し、答えを求めるところのできる力を持たなければいけない。そのためには教育への投資が必要だ。今後、教育委員会や学校現場の先生方と丁寧

な協議をスタートさせた業についての計画策定はこれからだ。
なお、それぞれ実施事

バリアフリー

投票所の車椅子対策を 必要な対策を講じる

問 10月に行われた衆議院選挙において、第5投票所の伊与喜小学校では投票所に通じる通路の幅員が車椅子の幅より狭い箇所があり、車椅子に乗ったままでは投票できないことが判明した。

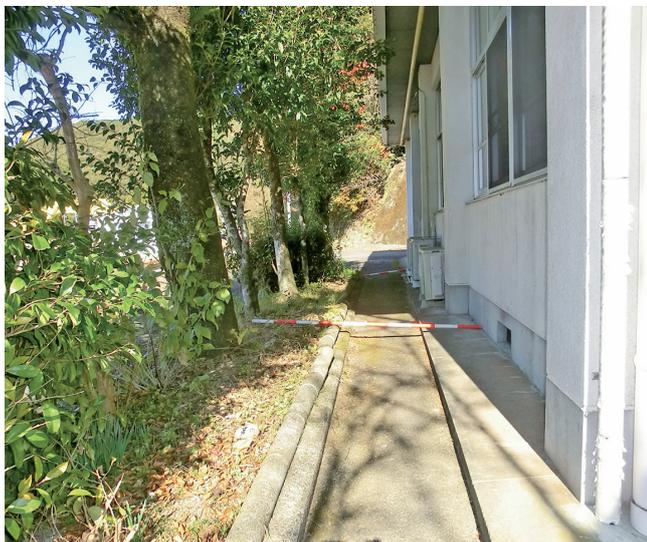
この部分の解消を求めると共に、他の投票所においても再調査が必要かどうか。

答 土居総務課長

車椅子の選挙人には不便をかけている。今後、当場所を投票所として継続する場合は、通路付近の一部拡張や段差解消のための簡易スロープの設置などの対策を講じたい。

更に、地域の意向を確認したうえで、佐賀保育所や森林センターなどのバリアフリー化された施設に変更することを含め、より良い投票環境を提供できるように検討する。

また、町内30カ所の投票所のうち、段差などの障害のある施設が14カ所あり、そのうち簡易スロープ等により車椅子対応ができていない施設は11カ所だが、スロープ等の対応ができない施設が3カ所あり、人的介助により対応することになっている。引き続き必要な箇所に調査を行い、適切な対応を執っていく。



伊与喜小西側通路（南側）



伊与喜小西側通路（北側）